

# 甲陽だより

発行所  
西宮市甲子園高野町3番7号  
甲陽学院同窓会  
電話西宮(0798) 62250623番  
郵便番号 662  
編集人 宮崎武男  
印刷所  
株式会社 紺谷印刷所  
大阪府生野区生野山崎町1-537  
電話大阪(758) 2566番

## 前進をつづける甲陽

甲陽学院同窓会会長 宮崎武男

新年 あけましておめでとございませう。

会員諸兄におかれましては御健勝にて新しい年をお迎えになられたこと、存じ慶賀に堪えませぬ。

一、二年前から国内を騒然とさせた学園紛争は、昨年末には高校にまで及び、この問題は人々を憂慮させていましたが、この問題は一九七〇年代の幕明けである今年も引き続き起る可能性が強く人々の論議の的となることと想像されます。私達甲陽の同窓生として母校が紛争の対象になることなく教職員、在校生が一体となつてこの教育危機をみごと切り抜け明るい学園に発展していつてくれることを切望してやみませぬ。

さて、いまを去る三年前の昭和四十二年に母校が創立五拾周年を迎えた機会に同窓会が新しい躍進をとげるため規約を改正し脱皮をはかつて以来、同窓会は順調な発展を続けていることは御同慶に堪えませぬ。現在さやかではあります甲陽学院の同窓会の基礎は確立しました。このことは申すまでもなく委員諸氏、会員諸兄の絶大な御支援によるものであることは勿論ですが、なんと申しましても高校内に設置されました同窓会室にあり日夜事務処理に当つてこられた合田専務理事と直接仕事に従事しておられる新山さんの献

身的な御努力によるものと改めて感謝の意を同窓諸氏に代り申し述べた次第です。

私は同窓会長として就任以来つねに学校ならびに法人と共に進む同窓会というものをツトとして参りました。このことは今も変わりなくその信念は正しかつたと確信いたしております。昨年度は同窓会として別紙に報告してございませう。各種委員会、理事会、夏の会員大会などすべて関係行事は滞りなく過してまいりました。たゞ、ひとつ残念なことは年会費が千名に満たないこと。この点何卒よろしく御協力のほどお願い申し上げます。同窓会は右の年間行事以外、本年は在学生諸君のクラブ活動活性化の一助として学校に対し、式拾万円の資金援助をいたしました。併せて御報告申し上げます。

本年は規約に基づき会長始め各委員の改選時期に当つています。会員諸兄におかれましては母校同窓会が益々発展するためには同窓会が如何なるべきかという点も含めて積極的な御意見ならびに御後援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会員は今年の卒業生をふくめると遂に八千名を越えることとなります。あらゆる機会によい意味において同窓諸兄が相互扶助をされ母校と共に発展してゆかれますよう切望してやみませぬ。

## 年会費納入ご協力下さい。

### 一九六九年の反省

学校長 林 連一

学校経営の立場からかえりみてまことに多事多難な年であつたと思われ一九六九年も終りを告げて、ここに七十年の新春を迎えることができて一段と責任の重大さを痛感いたしました。

昨年九月二十三日の「音楽と展覧の会」をきっかけに僅か五・六名の者が「甲陽全学闘争委員会」という会の結成を宣言し、その後十月二十一日の「国際反戦デー」には、その教育的意義などについて校内での討論会(参加者二十五名くらい)を開催。更に十月三十一日には「11・17スト貫徹」や「服装規定について」を議題に校庭の植込みで討論会(参加者三十名、四十名)を開催。次いで十一月十五日には「佐藤訪米阻止について」の討論会(参加者二十名くらい)を開き、ここで十七日の行動(ハンスト)をほのめかす発言あり。十一月十七日には「佐藤訪米阻止」のためのハンスト宣言及び「甲陽全学闘争委員会」の宣言を行ない、三名がハンストに入。ハンストは翌日午前中に解除されたのでしたが、この記事が毎日・読売・神戸の各新聞に載つたのでご父兄や同窓生各位に可成りのショックを与え、ご心配やご迷惑をおかけしたことを恐縮に存じお詫び申し上げます。

学校といたしましては、九月二十三日以来彼等数名とは常に接触を保ち、彼等の行動については十分指導して参りました。彼等の考え方を簡単に申しますと「今日の資本主義体制下にあつては、たれもが、その流れの中で意識すると否とに拘らず、ある一定の方向に流されている。その行き着く先にはわれわれの人間性を無視したものが立ちあはだかつてい

る。それを打破して真の自由(この点がかつかりとは留めていないように見受けられるのですが)を得よう。このままではコンベアのベルトの上から一歩も外へ出られないことに気が付く筈だ。だから先ず人間性の回復をめざすべきた。」というこのようです。

初め彼等の言動は他への呼びかけに努力していたようですが、十月後半からはそれが内面的な自己の克服の方向に向けられたのがありました。十一月十七日のハンストへの突入は、この行動によつて学校側から何等かの要求を勝ち取るというよりも、「甲陽学院の高校生という身分でできる最大限の意志表示としては、単なる個人プレーに終るかも知れないが、これ以外に方法はない。」という考えのようでありました。

以上彼等の行動は、それがたとえ個人プレーであつても、違法は違法に違いないので、学校としては黙認ではなく、今後とも更に十分注意して指導を続けて行きたいと考えております。

さて長年の懸案でありました運動場の改修が十月上旬に一応完成を見たのであります。使用後再び手直しをしなければならぬ点が出て来ましたので、第二学期末考査の時期を以て、四週間ほどでこれを完成いたしました。陸上競技の百メートルコースと助走路の根本的修理を含めて工費約六百万円、別に軟式テニスコート一面とバレーコート一面とその周辺のフェンスとで約二百万円、従つて総工費約八百万円を要しましたが、お陰様で面目を一新いたしました生徒たちも非常に喜んで張り切つてくれております。

# 会員大会報告

いまをさる三年前、母校が創立五拾周年を迎えた機会に同窓会が新しい発展を期するたため規約を改正し、従来の夏の総会を会員大会と改称して本年は第二回目である。前年度至塚ホテルで始めて大会を校外に移し成功したことには鑑み、今年度もひきつゞき八月二十四日の日曜日午後二時より宝塚ホテルの五階ブールダール宴会場において華々しく開催された。

集う者約百七十名。すでに選歴をすこされた第一回卒業生の大先輩諸氏と本年三月高校を卒業したばかりの第五十回生とが、ともに壇上で肩を担ぎ校歌を合唱している微笑ましい

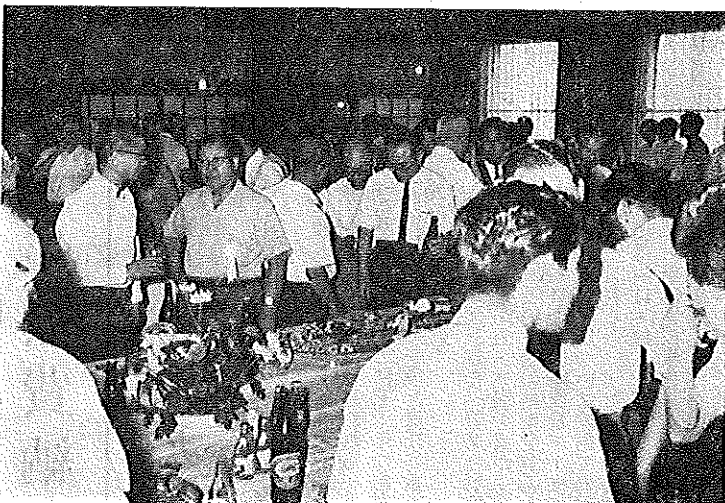
い会員大会交歓風景のスナップをこらんと下さ

こにはゲバルトもなければ造反もなく和気あいあいたる雰囲気があるのみで、遠路よりはるばる訪れた同窓諸氏もこに甲陽健在なりとひとしおの感慨を懐いて楽しいひと、きを過ごしたことでした。

今年度の大会の特色を一、二述べてみると旧甲陽高商、工専の卒業生が数名、二十年ぶりに当時の数学の先生であった吉田教授（現阪大教授）をかこみ懐かしい困らんひとと



第一回と第五十回（新卒）同窓生の交歓風景



会員大会会場風景

約五十名大挙して出席し、古い先輩諸氏から多くのビール、酒、オードブルなどを贈られ痛飲、快食をおこなったことなどである。

出席者全員は当日の宴会責任者でもある第一回卒業生野辺順一氏の御尽力によつて製作された甲陽高校の全景が版刷されている日本手拭をお土産にして来年の再会を期し約二時間半に及ぶ底ぬけに明るい立食パーティーはつづがなくその幕を閉じた。

## 会員大会次第

- 一、開会の辞 合田孝治 副会長
- 一、挨拶 原副会長
- 一、祝辞 宮崎会長
- 一、祝辞 辰馬理事
- 一、祝辞 林学校長
- 一、乾杯 野辺順一 副会長
- 一、閉会の辞 友国副会長

## 寄贈品だより

寄贈品による甲陽の歴史を飾ろうと思つて初めた呼び掛けであつたが、余り反響がなく淋しく思つております。書棚もあることで今一度皆様にお願ひ致します。甲陽に關するものであればよろしいのですから、是非御寄贈下さい。今回の甲陽学報などはとても貴重なものです。来校の節は是非見てもらいたいものです。

- 一、卒業記念写真帳 第四十八回 柴田 直氏
- 一、著書 生徒とは 黄得荒雄氏（第三十一回）
- 一、関係書類 甲陽学報（自昭和十一年十月一日至十四年一月一日） 井口康弘氏（第二十回）

伊賀先生受賞記念

甲陽（第十六巻） 藤木二三男氏（第十八回）

## お願い

第九号でお願いいたしました、同窓会事務局では同窓会の歴史を飾る資料を収集し、保存、活用をはかつております。会員の皆様の中にそのような母校の資料をお持ちの方は次の要領でご連絡下さい。

品目・卒業記念アルバム

その他資料として適当と思われる記録写真

・記章、ペンナント

・会員の著書、雑誌

その他、歴史的資料として保存活用の価値ありと思われるもの

連絡先

西宮市甲子園高潮町三番七号

甲陽学院高校内同窓会事務局

電話西宮（〇七九八）

電話西宮（〇六二二）

郵便番号 六六二

なお、寄贈を受けた品目は同窓会事務局に寄贈者氏名を明記し、展示いたします。

理事会打合せ事項(九月二十八日)

一、会員大会について

参加者収入と大会費用との支出差金十五万二千九百六十三円を同窓会一般経費負担とし、参加予定にて会費納入者の不参加者に対しては記念手拭を贈つて了承して戴くこととす。会員大会を他の時季に催す希望者もあるが、大学在学中の同窓の關係上、次年度も夏季とし、大会を盛大にするため、各卒業期の委員に同期の同窓に呼びかけることを徹底してもらうこととす。

なお本年度は昨年度のような固苦しさが抜けて、本年度委員会(総会)について、昼間の日曜開催もあつたが、審議時間を十分に確保するため、従来行つていた理事会と同日の別の日となし、理事会を三月二十八日(土)午後五時、委員会を四月四日(土)午後七時の予定で開催することに決定。

一、年会費納入協力について  
理想としては各卒業期ごとに二十五名乃至三十名を確保し同窓会の充実を計りたいのであるが本年は別表の通りや、不振のため、各期の集合のさいには是非お互に呼びかけて戴

くこと及び次の「甲陽だより」には第一面に「年会費納入乞御協力」の見出しを出すことに依つて前進せしめることにする。

同窓会委員会歩み

独立事務室を開設してから一年を経過して、やつと落着きを感じたように思われますが、一概に同窓会といつてもやれば幾らでもやることのあるし、やらなければ只名簿の整理だけをこつこつとやることがあつて、今更年ら独りの力では何も出来ないことを痛切に感じている次第、十号の「甲陽だより」を送つて大会を無事にやつて、やれ／＼と思つて早や次の「甲陽だより」発送の準備と、十号の返戻整理といった状態である。

昭和四十四年

- 六・二二、「甲陽だより」下副の校正
七・二、「甲陽だより」十号発送
八・二四、会員大会準備委員最終打合せ
九・二八、理事会、会員大会反省会
(打合せ別項にて明細示す)
一・二八、学校、法人、側と懇談会

会員名簿整理についてのお願い

毎度の事になるのであるが、「甲陽だより」を発送することに相当数の返送があるので、これが自然と同窓会と縁切れに連つてくるように考えられて事務当局としては心細く感じている次第、なんとか同窓の隆実な掌握を思っているのであるが、これも卒業の同期の各自の御援助がなければ到底出来るものでないの、毎度の御掛けになります、今一段の御努力をお願い致します。

同窓の方々で左記の方々の住所又は勤務場所をご存知の方はお手数ですが同窓会事務局までお知らせ下さい。

Table with columns for membership counts: 高商人之部員, 人, 員, 回数, 昨年, 本年, etc.

Table listing member names and their corresponding membership numbers (e.g., 第二十七回, 第二十八回, etc.)

栄 誉

池尻景順先生 (本校音楽担当)

音楽教育功労賞を受く

日本教育音楽協会会長 小出浩平氏より昭和四十四年度の音楽教育功労賞を左の功績により池尻先生が受賞された。

一、池尻氏は日本の中等学校の音楽教育に作曲指導をとり入れた草分けの一人として、それが戦後の創作指導を招き寄せた原動力の一部をなした功績が大きい。一、五十余年間学校の音楽教育に一身を捧げて努力していられる永年勤続の功績。一、作曲指導法の著書を公にし、後輩を啓蒙した功績。

信川百二先生 (本校体育担当)

昭和四十四年度

西宮市体育功労賞を

受賞さる

信川百二先生の受賞記念祝賀会が旧年六月七日、西宮の料亭魚豊において華やかに開催された。坪井淳一 (26回) 河合仁 (26回) 中村光成 (35回) 諸氏が発起人となられ、先生を慕う三十数名の同窓生がその呼びかけに応じられ、夜の更けるのも知らず楽しいひとときを過ごした。信川先生もこの受賞を機に、心気一転母校のためにさらに奮闘すると誓われ参加者は感激し、先生を扇上げしてますます今後の御健闘を切望したことでした。当日の模様を前田保信氏 (

32回) からいたゞいていきますので以下掲載いたします。

信川先生のスポーツ功労賞受賞記念祝賀会が、六月七日西宮市中央商店街に近い料亭魚豊でひらかれました。

校長先生、高体連の方々をはじめ、卒業生有志など総勢三千余名。祝辞、記念品贈呈と、このへんまでは、教師を前にするとおとなしくなるといふ悲しい条件反射で、静まりかえっていた連中も、乾杯を皮切りに祝宴ともなればもうこちらのものと、たちまち活気をとりもどした。次々とかつての教え子にかこまれて、肝心の先生の姿はなかなか見あたらない。ようやく声と、頭で見つけ出すありさま。あとで店の女将にきくと、こんなにぎやかな集りは始めてだとのこと。この盛況ぶりも校歌斉唱万才三唱となると最高潮に達し、扇上げのおまけつき。する連中高デカく、される者が——という物理的因果関係は如実に示されて、ついに先生は天井板にぶつつけられる仕末。生徒の時はさんざてこずらせ卒業後もこのありさまではと、教師の道のきびしさを身をもつて教えられました。そのあとも、先生を中心にくみかわす楽しい酒はつまることなく、幹事一同心身ともに疲れましたが、実にすばらしい会でした。先生の褒らぬご活躍をお祈りいたします。

昭和四十四年度

西宮市民文化賞

河野通紀画伯 (15回卒)

受賞さる

行動美術協会会員の河野氏は国枝金三氏に御事され、その作品は日本国際美術展に招待

される一方、サンパウロ、ピエンナーレ国際美術展、東西文化交流アメリカ巡回展などの国外展にも多く出品されている中堅画伯である。最近ではヨーロッパを巡遊され視野を広められる一方、長年郷土西宮市民のために美術指導に献身的努力をされたことが、今回の受賞の対象となったものと考えられている。十一月二十四日より一週間、大阪堂ビルのフクダ画廊で個展を開催されたが十七点の作品は忽ちにして売却済みになるという売れっ子ぶりであった。フクダ画廊店主は河野氏賞讃の辞を次のように記している。

「まれにみる個性の強い作家、独得の雰囲気をもつた。その作風、新しい絵画の世界を切り拓くことの困難さは大変なこととです」と、河野氏の今後の御健闘を期待するや大なるものがあります。

藪内清氏 (第2回卒) に

輝く朝日賞

昭和44年度の朝日賞(うち文化賞)が、藪内清氏に贈られることになったと、朝日新聞一月元旦朝刊紙は報じた。

藪内氏は旧制甲陽中学校を大正12年に卒業され、京大理学部在学中は湯川、朝永両ノーベル賞受賞者諸氏と同期の仲であった。京大人文科学研究所長を最後に退官され、現在は竜谷大学に職を奉せられている。氏は京大名誉教授であり、科学史国際アカデミーの会員でもあるが、今回の受賞は「中国の天文曆法」など中国の科学技術史研究の功績で与えられたものである。朝日新聞では氏を「現代日本の科学史家の中で最高の知識人」と記し、改めてその業績を讃えた。

甲陽学院同窓会としては、先生の功績に對し遺憾なくお祝いを申し上げた。また先生よりは御鄭重な謝辞をいただいた。

懇談会 (法人、学校、同窓会)

甲陽学院の同窓会の在り方は、法人、学校とつねに歩調を揃えて歩むべきであるとの持論を堅持しておられる宮崎会長の意向をうけて十一月二十八日、法人、学校とくに母校出身の教職員と同窓会役員との懇親(会)を開かれた。理事會が新築改装なつた宝塚ホテルで開催された。

合田専務理事が議事を進行され、まず報告事項として、さる八月二十四日の会員大会収支決算、来年度の理事會、委員會開催の予定日、次回会員大会開催日などが述べられた。その中で合田理事がとくに強調されたことは年会費徴集についての協力方の方のこと、そのため新しく発行される甲陽だより第十一号には個人協力方のスタンプを押すことになった。理事者側の念願としては年会費が年々増加するを切望しており、そのためには会員の積極的な関心ならびに御協力を切望したいというのが偽らざる気持である。

次に審議事項に入り、(1)昭和四十五年度は会長を始め全理事、委員の改選時であるため現任理事の改選に対する希望、見解、(2)従来母校(高校)を卒業するとき卒業生に対し同窓会より記念バツジ(帽子につける小さな校章)を贈っていたが最近の学生諸君が殆んど帽子を着用していないので何らか新しい記念品に変更する必要があること、(3)甲陽だより編集方針について——もう少し改善の必要があるのではないか。以上のような議題につき種々各委員より活発な意見が述べられた。以上の三つの議題に關しては結論めいたものは出さなければならぬが、林校長よりの学校の近況報告とも合わせ極めて有意義であった。

日時 十一月二十八日(金)午後六時より

場所 宝塚ホテルロビーにて

出席者 (同窓会側) 宮崎会長、原、友国、高垣の三副会長、合田専務理事、伊東常任監事以上6名

(法人側) 辰馬修一理事長

(学校側) 林校長、太田、安福の二教頭、北村副会長、山田、宮本、柳原、中島、吉井の校内幹事以上9名



甲陽会（第一回卒）記念写真

### 会員だより

#### 甲陽会（第一回卒）だより

前回の六月二十三日の会合の席上に、活躍となつた、浜松第一回卒の甲陽会を予告の通り十一月八日九日に西松氏の御厄介で東棉紡彩装束を合とする会合を実施した。「ゴルフ」同好の志もあつたが生憎の用事があつた



懇談会風景

ので結局は西松、野辺両氏と小生の三人の少人数となつた。佐々木義夫氏の申込みをやつて呉れた関係上スタート時間も都合良くコースも「シーサイド」の平坦な場所で開催にはとても考えられない「フット」な彼の覚えのない「プレイ」が出来たのは最良であつたと思つた。

所定の時間に浜松駅南側に引返し参加者一行と落ち合った。突然の風邪の為の不参加三名あつたが、卒業以来四十余年会つてない熊倉、谷島、橋本、溝口等諸氏に出会ふ事が出来事実上東京、大阪の中央の東西会合となり、東棉の「ライトパス」内で久方振会合の挨拶交々の雑談に耽りながら約五十分して目的の寮に到着した。

夕食を銘酒白鹿を辰馬氏の御寄贈によつて、充分と頂戴、「アルコルー」の力も加つて、話は次から次と夜の更けるのも忘れ語り続ける。記念写真も土居、中島両氏が腕を揮われての縮影の形となり、宮崎、辰馬氏も時折シャツターをさらされる座ありで、なかく果つところなかつた有様、明日の行程もあるので、お互いに注意をなすところとなつて夜に就く始末となつた。

夜中の雨も上り晴れ間も見えるようになつた。有難い行楽日和を「ライトパス」に乗つて若草山へ行きロープウェイにて浜名湖の上空を横切つて船山寺（曹洞宗の禅寺）に参詣して、新居の園所跡に行く、開所の建物として、唯一のものである由、現在開所の位置より南に陸地はあるが昔は浜名湖の湖上へ向いて隔りあり、湖を渡るにあらざれば旅が出来なかつたとか、其の船の上り口にあつた開所との事である。

翌食を弁天島にて名物饅頭を賞玩する。記念写真を中島氏に撮つて貰つて予定時刻よりは少し早く予定の行事を完了して浜松駅に向い東西にまた別れ、お互に健康を祈り、再会を願いつつ、楽しかつた会合を偲んで引上げた。今般の事に関しては、西松氏の御好意によるものであつたが、集つた会員の人々には本当に楽しい会合として印象に残つたこと、思う。今後東西の人々の会合の持ち易いところを計画して是非一度やりたいものであると考へられる。不幸にして参加不参加になつた人々のこの楽しい思い出を持ってなかつたことを惜しまれてならない。（合田生）

### 広島甲陽会

広島にも甲陽出身者が居ると言うことになつて集りを持つてから三年程になると思ふ。と云つても一年に一回の会合だがそれでも結構楽しい会になつて来た。十二月十二日忘年会を兼ねて広島ステーションホテルに集つた。チリ鍋を囲んで先ず懐談に花が咲



き、校歌の合唱等まさに高潮、ベリベリグットタイムであつた。顔はバラエティに富んだ人々、工専卒も一名来て下まつた。奥田秋夫（四卒広大教授）常務夫（原木材公社常務理事）ゴルフのデューチングプロの第一人者福井康雄（十一卒相堂）落合平四郎（七卒）高橋大介（十卒）大林豊治（十五卒）梶止孝（十八卒）横田正隆（十九卒）北川清（二十卒）交田典幸（二十五卒）田中弘（工専一卒）と小生計十二名他に二宮信也（十八卒）等多士済々である。

なお広島甲陽会は会長奥田秋夫氏、副会長常務夫氏、常任幹事北川清氏と定例会費も取つてチャントやろうと言うことになつた。言ふなれば同時に同窓会広島支部と言うことであつて前途遠大である。（宮崎略記）

### ゴルフ

#### 「甲陽三三三会」開催

残暑まだ厳しい去る九月六日（土）第二回目ゴルフコンペ甲陽会を第三十三回卒業業に因んで会の名称を「甲陽三三三会」と改称し滋賀県下の甲賀カントリー倶楽部に於て催しました。九月十三日予定の所を急に繰り上げた関係で参加出来ない人が数名あつたのは残念でしたがそれでも左記の十二名が集りまし

た。前回の参加者が多数居たせいか半年振りの再会にも拘らず一層の親しみを感ぜました。

太田君の運転する車が欠陥車（？）のせいかエンジンが故障して遅れると云うハズニングがあり先に到着した我々ははらはらする場面もありましたがまずは予定通りスタート。無風のためや、蒸し暑かつたが快晴絶好のコンディションの下にプレイを続けました。

午後六時無事終了の結果北村君（ハンデイ十五）が優勝しました。ベストクロスも同君でした。クラブ別室で行つた表彰も優勝の他は三三三会に因んで三位六位九位と三の倍数の順位を飛び賞にすると云う趣向を凝らしたものでした。

我々卒業当時は酒屋で一杯やりながら同窓会を行いました。が十七年経つた今日ゴルフの同好が集つての同窓会は又格別です。前回も「甲陽だより」に記念しましたが同年度の卒業でゴルフをされる方は次回是非参加されませうお願いいたします。次回は昭和四十五年三月十九日（木）で場所は未定です。連絡先は後記します。

猶この会の運営にあたり幹事松本、太田両君の御尽力に敬意を表すと共に車を運転して最後送便費を計つて戴いた八木、喜田の両君にも感謝する次第です。（瀬記）

当日の出席者は次の通り  
喜田、池上、樋口（司）、瀬熊、松本（和）小林、八木、二宮、太田、北村、東、太田連絡先  
大阪市北区空町一ノ三ー一 松本和雄 TEL 三五二 六〇三六

### 「川のある地下街」のアイデアを実現した山口興一氏

（44・12・6 朝日新聞 人その意見欄）

いま注目を浴びている阪急電車新梅田駅に生まれた三番街——川のある地下街——のアイデアを実現した山口氏は甲陽第六回卒である。現在京阪神急行電鉄専務取締役。山口氏は「人」の欄で次のように語つておられる。

「大阪は水の都」やから水を使うたらどや。だけど池や噴水ならどこにもある。いっそのこと流してみたら川にざつと千五百平方メートルのスペースがとれる。権利金が三、三平方メートルで百万円、月々の家賃が同じく三、三平方メートルで一万円。ソロバンをはじいてたらとても割りの合うもんじゃない。しかし、いつまで考えていても堂々めぐり。エイイ階切れ——ヤングパワーの勝利ですな。動き、光、音で総合効果を、という注文を若い設計陣がみごとにこなしてくれ。公害に「川」を奪われた都会人の郷愁をよみがえらせるのにびつたり」

と山口氏は若い人々を讀んでおられるが、よくぞ大勇断をもつて決心されたもの。私達同窓生は山口氏に拍手を送りたい。

哀 悼

谷本松視先生

谷本松視先生が七月十五日死去された。先生は広島県人、山口県師範学校卒業の後同地の初等教育に従事、物理学学校の数学科を卒業、奈良県桜井高女、大阪府岸和田高女を歴任の後昭和十六年本校に赴任、爾來昭和四十三年三月まで実に二十有八年の永きにわたり、教務主任として、或いは教頭として活躍された。

先生は熟慮断行の方であった。事に当たっては必ずしもスピーディーではなかつたが、一たび考えが定まると着々と実行された。現在の修学旅行のコース、日程などは大体先生の樹てられたものである。

授業振りなど拝見した訳ではないが、着実に行き届いていたらしく、卒業生で敬服しているものが多かった。一口に言えばこわい先生でもあつたが、信頼も置ける先生であつた。

また趣味の人でもあつた。奈良の赤膚焼、近江の信楽焼、丹波の立杭焼、加賀の九谷焼などを訪れて、その持ち味を玩味された。あまり口に出されなかつたので知る人は少ない

かも知れないが、それだけに奥床しいものであつた。

その他、謡曲の会、旅行に必ず撮影されたカメラなど、その恩恵を受けた人も少なくないはずである。

要するに仕事に於ても、人間としても、接すれば接するほど味のある人であつた。まことに惜しい人を失つたものである。心からご冥福を祈る次第である。(北村記)

ご遺族ご住所  
西宮市今津双葉町四一五 窓一七四一

世良亮一先生

昭和の初年に在職された旧職員世良亮一先生が昭和四十四年十月八日心臓衰弱で死去された。享年八十三才。

先生は岡山県人、国語漢文を専攻、独学で高等教員検定試験に合格、本校退職後、鹿児島県立末吉高女校長等を歴任された。

日記歌謡に關する著作がある。晩年は漢文研究に没頭、孔子教の普及に尽された。漢詩集の私家版もある。

また玉島高女、本校、末吉高女等の教え子たちの建てた歌碑がご郷里の鷺羽山の近くに

ご遺族は  
福岡県三井郡小郡町新町住七  
世良 忠彦氏

会員 計 報

武田文之助君 (一回卒)

昭和四十四年六月二十日腦充血にて急死された。卒業後福井高工(旧制)染色科に入學、昭和二年同校卒業後福井染色会社に入社し同三十八年十二月同社を退職、在職中は専務取締役として同社に貢献せられる。家庭は長男は郡山に就職、次男は東京工大卒業後昭和電工に就職せられ、福井には大妻と共に親戚の子を預り暮し居られた由。

安田 駿三君 (一回卒)

安田駿三君は本校卒業後神宮皇學館に進み、岡山二中教諭、尼崎市立高女を歴任、

多年尼崎市立高等学校長として活躍された。これから悠々自適の生活に入らうとする矢先惜しくも死去された。

数千人に上る教え子達に取つてもまことに、慈父を失つた感が深いことだろう。

中島 豪一君 (二回卒)

四十四年十一月一日死去される。卒業後第五臨時教員養成所へ入所せられ、島根県今市実業校に奉職、後遠く朝鮮の羅南高女、坂津高女、等を歴任終戦後尼崎に引上げられ尼崎市立尼崎商業学校を経て尼崎市立大庄西中学校校長を六年間就任せられ公職を去りて後は夙川学院高等學校に勤務、学年主任、生徒指導主任等教職に終始せられた。

山川 清君 (一回卒)

四十四年十一月十日死去せられる。卒業後洋面に志され、昭和三年渡仏、同九年帰國春陽会会員となる。清潔な詩情にあふれた独自の画風をもつて画壇に知られ、昭和三十三年以来毎日婦人文化教室の講師として多数の女流を指導された。

著書に「ゆうもす」と「裸婦に見る世界の名画」等なお、氏は大阪市名誉市民第一号白川朋吉氏(大阪市公議長)の長男である。

倉田 定雄君 (四回卒)

倉田定雄君は四十四年十月二十五日死去。大阪高商卒業、石油界に終始、丸善石油常務の要職にあつたが、前社長和田完二氏に殉じて退社、安全石油代表取締役、並細重石油常務を兼務された。

本校在学中より柔道に情進し爾來三商大柔道大会、社会人柔道大会の役員として功績があつた。

ご遺族  
西宮市仁川町五丁目四ノ二六  
倉田 和幸氏

留川 博行君 (四十五回卒)

留川博行君は十月十八日死去された。神戸大学経済学部を卒業、尼崎市役所に就職された。よき公務員としてその大成を囑望されていたのにあたら若い身姿で倒れたのはまことに惜んでも余りがある。

45年度 昭和四十五年 入学志願者心得

- 西宮市中腹原町二番一五号  
(阪神電車香炉園停留所)  
(下車南西へ徒歩約十分)
- 学校法人 甲陽学院中学校  
長島育英会
- 一、募集人員 男子 約百六十名  
二、出願期間 昭和四十五年二月十日(火) から二月二十一日(土)まで  
(毎日午前九時から午後四時まで。ただし日曜日・祝日を除く)
- 三、出願手續  
(1)本校事務室で入学志願者名票、写真台紙、調査書用紙を受け取る。  
(2)調査書用紙を受け取る。  
(3)調査書用紙を受け取る。  
(4)調査書用紙を受け取る。
- 四、入学検査  
(1) 調査内容  
①出身学校から提出の調査書審査  
②筆答審査  
③面接  
④身体検査  
(2) 調査期日  
三月三日(月)  
三月四日(火)  
三月五日(水)
- 五、合格発表  
三月六日(木)午後五時本校内に掲示する  
合格者は発表後直ちに支園受付で入学検査票と引き替えに、合格通知書および入学に必要な書類を受け取る。  
入学金七万円
- 備考  
授業料(本年度は一月五、六〇〇円)であるが、四十五年度は未定。  
生徒会費(一)一月一五〇円  
育友会費(一)一月一五〇円  
ただし、将来情勢により変更することがある。  
合否についての電話によるお問い合わせはご遠慮下さい。